おまえざきの人 きらり輝く人

平成31年 春の緑綬褒章を受章

御前崎エコクラブ

PROFILE
山本貴美枝さん（一番左）。1945年生まれ。大山区在住。「御前崎エコクラブ」会長。
写真は御前崎の海岸に咲いていたイワトユリの花。

長年の活動が認められる

御前崎港の一画にある御前崎エコパーク。敷地の広さは約2・5ヘクタールでサッカーコート3面分以上もある。この広大な土地を整備するのは御前崎エコクラブ（山本貴美枝代表）だ。同団体の活動は今年で21年目を迎える。今回、長年に亘る社会奉仕の活動が認められ、4月29日に栄えある緑綬褒章を受章した。

今後も力合わせ整備する

御前崎エコクラブの会員は40人。山本代表を中心にエコパークを笑顔あふれる公園にしようと、時間をみつけては公園に足を運んで作業に取り組んでいる。そんなエコパークには、シラス網で作られたハンモックや400種類以上の草花が植えられている。週末には家族連れが四季折々に咲く花を見て、のんびりと過ごす姿が見受けられる。

これまで会員の人脈を生かして公園を再生してきた山本代表は、「みんなで力を合わせて整備することが楽しい」と笑顔で話す。また、今日までエコパークの環境保全活動を通じて会員や港湾関係者、公園を訪れた人など、数えきれない人と出会ってきたという山本代表。なかでも青森県の人は、エコパークを訪れた際、同団体の活動に感銘を受け、それ以来毎年りんごを送ってくれるという。また、門屋地区からバスに乗って来てくれる中学生は、きれいに生えた草花や整えられた施設をみて「将来は私もボランティアをやりたい」と言ってくれているとうれしそうに話す。山本代表は謙遜するが、同団体が多く人の心を豊かにし、人と人との縁を生み出していることは明らかだ。

山本代表は緑綬褒章の受章に対し、「今回のような形に残る賞はうれしいが、多くの人とつながりができたことがなによりうれしい。会員の年齢が高齢化しているため未来を考えると大変。それでも明るく元気で健康に取り組んでいきたい」と話す。

これからも御前崎エコクラブの活動は続いていく。そして多くの人と縁をつなげていきながら、人々の心とエコパークの自然を豊かにしていくであろう。